



16号の主な内容

- 公開国際専門家会議
- 世界ハビタットデー絵画展開催
- 入門「国際交流ボランティア」
- 地球市民どんたく2005
- 公開フォーラム開催

第16号

<http://cnhf.nngo.jp>

■公開国際専門家会議開催

～記念フォーラムを開催～

国連は毎年10月の第一月曜を世界ハビタット・デーと定め、急激な人口増加と急激な都市化により深刻化している人間の居住環境の問題について、全世界の注意を喚起しています。特に今年は21世紀に向けた国際社会の行動目標「ミレニアム開発目標」が2000年に制定されて5年がたちました。各分野でご活躍の専門家の方々をお招きして、持続可能な都市を形成する際の評価基準となる都市の総合的な指標とは何かを意見交換する公開国際専門会議が10月3日アクロス福岡大会議場で開かれました。

討議のテーマは「持続可能な都市の実現に向けて～住みつけたいまちとは～」です。開会式にあたり国土交通省国土計画局総合計画課野田課長の挨拶で始まり、次いでアンナ・チバイジュカ国連ハビタット事務局長会議挨拶の代読がおこなわれました。

九州大学人間環境学研究院出口助教授のコーディネートにより持続可能な都市の定義・持続可能な都市の指標をテーマに討議が進められていきました。話の中でなぜ持続可能な都市の指標が必要なのか？という話や、日本のコンパクト・シティ、都市計画のゾーニング、福岡の1極集中、北九州の多極化の話の紹介がありました。

野田課長からは国土政策から見た持続可能な社会をテーマに話されました。持続可能性の指標を策定し、都市を評価しているか？指標を政策評価として結びつけていくかが重要であり、今後は経済発展と環境のバランスをどうとるか？が重要であると話されました。

九州大学大学院比較社会文化研究員山下助教授からはEUにおける都市持続可能性指標をテーマとして話されEU都市監査事業、イギリスのエジンバラを事例として挙げられ、EUでは人口学、社会学、経済、市民参加といった対象範囲の広い分野でキメの細かい指標を使って都市開発の評価をしている状況を述べられましたが、都市の多様化や発展段階が異なる状況では同じ指標を使うのはどうかという指摘もありました。

岡山大学大学院環境学研究科谷口教授からは指標をめぐる4つの挫折のパターンやコンパクト・シティの概念の話がありました。人間が年をとれば人間ドッグに入って検査を受けるように、都市もある程度発展したら検査をしていく必要があり、検査の際に使う指標が必要と述べられました。

国連ハビタット・コンサルタント、アマン・メーターさんからは中国で行われている国連ハビタットの指標プロジェクトの説明がありました。指標の普遍性、集収あるいは実際の政策へのあてはめといった指標のイ

ンプットとアウトプット、指標活用の重要性を指摘されました。

福岡市総務企画局調整部貞刈部長からはマスタープランにそった福岡市の取り組みと小学校校区ごとのコミュニティを目指した市民活動との連携の紹介がありました。経済と環境と社会のポリシーミックス、成長についてのコンセンサスを形成していくことが大切と述べられ、アマン・メーターさんと同じく指標が何かしらの普遍性を持つことが重要と話されました。

九州大学人間環境学研究院出口助教授からはまとめとして指標には①自立性②スケールの単位の重要性③今だけでない時間の概念の3つが必要と述べられ、指標は市民に選択を与え、政策を評価するツールとして都市作りの市民参加を促すがまた多くの指標要素からどのようにプライオリティをひろっていくかがカギと指摘されました。経済成長のみだけではなく、都市が大きくなることへの限界、バランスの重要性が強調されました。

2時間程の時間ではありましたがテーマに沿った非常に専門性の高い会議でありました。(山前)

公開国際専門家会議の様子



左から出口氏、野田氏、山下氏



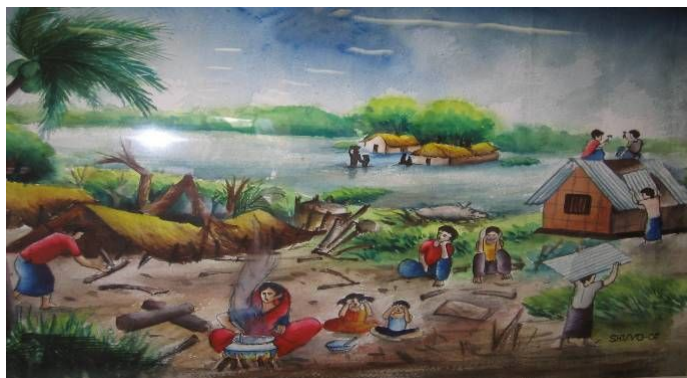
左から谷口氏、アマン・メータ氏、貞刈氏

## ■世界ハビタットデー絵画展開催

9月27日(火)～10月2日(日)九州エネルギー館多目的ホールにて第5回世界ハビタット・デー記念絵画コンクール展示会が開催されました。

テーマは「みんなでつくる災害に強い「まち」」で、日本・スリランカ・タイ・ラオス・バングラデシュ・キリバスといったアジア太平洋地域の児童・生徒(小学校 4～6年生)を対象に開催された絵画コンクールの優秀作品が展示されました。

全 196 作品の中から国連ハビタット賞金賞に選ばれたのはバングラデシュの Khulna Art School 6年生の Md nasif adnan shuvo 君の作品です。「かつての悲惨な状況は解消され以前より生活がしやすくなりました。災害後に被災者がどのように災害への最善の解決策を見出したのでしょうか？子供たちの母親は子供が転落などの事故に遭わないようにとても心掛けているのです。この絵画はそのような思いを込めて描きました。」とのことでした。



金賞を受賞した Md nasif adnan shuvo 君の作品

日本ハビタット協会賞にはスリランカの4年生 R.M.Rashmy さんが選ばれ、「津波とは港に押し寄せる大きな波のことで、土地をめちゃくちゃにし、多くの人を傷つけます。」とコメントしています。

「みんなでつくる災害に強い「まち」特別賞には福岡・東明館小学校 吉村わかばさんが選ばれ「災害は必ず起こるので起こったときのダメージを小さくできる町がいいです。災害の状況を知るために情報は大切です。線路や道路が分断されればヘリコプターで救助隊が出動し、住む人も災害を想定して毎日の生活を送るようにしたらいいと思います。災害時には地域の人々が助け合うことが大切です。」とコメントしています。



「みんなでつくる災害に強い「まち」特別賞を受賞した吉村わかばさんの作品

展示会と同時に国連ハビタットのスリランカ「ふくおか村」住宅支援事業、住民参加型の事業プロセス、災害後の復興計画のパネルも掲げられました。

他の賞作品、力作多数が展示されたこのコンクール絵画展は絵の中に災害といったテーマを扱いつつも、子供たちらしい純真さを多くに感じさせてくれた展示会でした。(山前)

## ■入門「国際交流ボランティア」

～ボランティアは誰のため？～

9月8日(木)、天神ビル11階、11号会議室において、福岡国際関係団体連絡会(FUKU-NET)主催で、第103回連絡会『入門「国際交流ボランティア」～ボランティアは誰のため？』が行われました。

末永直行会長のご挨拶の後、「国際交流ボランティアとは？」と題した基調講演が、ハビタット福岡市民の会の牟田代表により行われました。講演の中で牟田代表は、個性の重要性や異文化交流、ボランティアの本当の意味、生きがいを持つことの重要性などについて、自身の体験を交えながら、プレゼンテーションを行いました。



プレゼンテーションを交えながら講演する牟田代表

講演のあと、パネルディスカッションが行われ、パネリストをカンボジア地雷撤去キャンペーンの大谷賢二代表、アジア太平洋子ども会議・イン福岡の木本香苗事務局長、牟田代表の3名が、コーディネーターを(財)西日本国際財団の渡辺明治事務局長がそれぞれつとめて、「ボランティアは誰のため？」について、活発な議論が交わされました。パネリスト3名の取り組む活動内容はそれぞれ違っても、ボランティア活動により自分が感動を得ることができ、それが、世のため、人のためになるという点では、共通しているものを感じられるものでありました。(堀)

パネルディスカッションの様子



左から渡辺氏、大谷氏、木本氏、牟田代表



# ■地球市民どんたく2005

～元気バイ福岡。やるバイ国際協力！～

10月15日(土)～16日(日)の両日、ベイサイドプレイス博多埠頭において、「地球市民どんたく2005～元気バイ福岡。やるバイ国際協力！～」が開催されました。福岡国際交流団体連絡会(FUKU-NET)に加盟する団体のうち、29の国際協力・交流団体が各ブースでパネルや写真の展示、民芸品や飲食物の販売を行い、活動を紹介しました。



ハビタット福岡市民の会のブース展示

ハビタット福岡市民の会も、ほぼ中央の11番ブースに出展し、国連ハビタットの活動内容、市民の会の活動状況、アフガニスタン復興支援活動関連のパネル・配布物を展示しました。

1F デッキのステージでの活動紹介では国連ハビタット福岡事務所の活動を市民の皆様にお知らせし、より深く理解していただくため奇数月に運営委員会、偶数月に定例学習会を行って、アジア太平洋地域の人間居住や都市の問題点とその解決法を学習し、市民レベルでの支援の輪を広げる活動を行っていることを紹介しました。牟田代表によるハーモニカ演奏も行われ好評もいただきました。



ステージで活動紹介(左より、牟田、諸藤、堀)

16日のワークショップでは、「活力あるコミュニティづくり」をテーマに、「貧困による児童労働および教育の問題について」を課題にして、「開発途上国での都市郊外のスラムの貧しい現状」を記述した書類を配布し読んでもらった後、この地域での問題の解決法を各グループで話し合っ、解決案を模造紙にマジックで書いて、グループの代表者に発表していただきました。

参加された方々には熱心に討議していただき有意義なワークショップとなりました。



他の国際交流や協力に携わっている NGO 団体とも交流が深まり非常に刺激も受けた地球市民どんたくでもありました。(山前・牟田)

## ステージでの民俗芸能披露





## ■公開フォーラム開催

8月1日(月)、アクロス福岡の国際会議場で、国連ハビタット福岡事務所設立8周年を記念して「イラク・スリランカにおける紛争・災害後のまちづくり」の公開フォーラムが開催された。市民の会からはコメンテータとして牟田慎一郎代表が出席しました。



マダブ・マテマ所長代行の挨拶に続き、国連ハビタットイラクプログラムマネージャーであるロバート・グッドウィン氏から、イラクでの活動報告(ビデオ出演)が行なわれた。その中で、国連ハビタットは1996年から支援活動を実施し、主にイラク北部の国内難民プロジェクトや学校の再建事業を行い、9年間で22000を超える世帯の再定住、500を超える学校の建設、200を超える学校の修復などが行なわれたことが報告されました。

次に国連ハビタットスリランカ・プロジェクト・マネージャーであるカピラ・フェルナンド氏によるスリランカ復興活動報告が行なわれた。長年内戦に苦しんできた人々にとって、津波災害は追い討ちをかけるものであったが、再建事業が上手く計画・運営されることで人々への掛け橋として、平和構築の後押しとなることが考えられると述べられました。

続いて、パネルディスカッションが行われました。マリ・クリスチーナ国連ハビタット親善大使がコーディネーターを



務め、国土交通省野田順康氏、外務省相木俊宏氏をはじめ、福岡県生活労働部国際交流課長山村より子氏、九州大学大学院出口敦助教授、ハビタット事務所の方々による活発な討議が行なわれました。(諸藤)

## ■今後の活動予定

- 11月17日(木) 19:00~ 運営委員会
  - 12月1日(木) 18:30~  
地球市民どんたく 2005 第5回実行委員会
  - 12月16日(金) 18:30~  
国連ハビタット福岡事務所との交流会
  - 2006年1月19日(木) 19:00~ 運営委員会
- ※予定は変更になる場合がございます。ご確認の上、ご参加ください。

## ■事務局よりお知らせ

### 〈書き損じの葉書を集めています〉

ご家庭に眠っている書き損じハガキはありませんか?書き損じハガキを捨てていませんか?

ハビタット福岡市民の会では、書き損じハガキを新品のハガキや切手に交換して、NL や通信の発送など、会の活動に役立てています!

市民の会宛の郵便物および書き損じハガキの送り先は  
〒810-0041 福岡市中央区大名2-6-46  
福岡市 NPO ボランティア交流センターあすみん  
連絡ボックス2号

お問い合わせは

TEL: 090-6770-2481(代表 牟田)  
090-1873-6954(事務局長 堀)

FAX: 0942-41-2080

[Email: cnhf@nngo.jp](mailto:cnhf@nngo.jp)

### 〈会員・ボランティアスタッフ募集中〉

ハビタット福岡市民の会では、九州唯一の国連機関、国連ハビタット福岡事務所の活動内容を、広く市民の皆さまにお知らせし、より深く理解していただくための活動に協力して下さる会員(総会での議決権を有します。)、ならびに会を運営するボランティアスタッフを募集しています。

私たちと一緒に活動しませんか?

皆さまの参加をお待ちしております。

活動内容

- ニュースレター取材、作成、発送作業
- 学習会ならびに出前授業の企画、立案、実施
- ホームページ更新
- 各種イベントの企画運営や支援  
募金活動、Create Festa、スタディーツアー、世界ハビタットデー、地球市民どんたくなど

### 〈2006年度会費納入のお願い〉

このニュースレターは、皆さんの会費で発行されています。会費納入による皆様のご支援をお願いいたします。

年会費 一般 2,000円 学生 1,000円  
郵便振替口座 01730-0-78434  
加入者名 ハビタット福岡市民の会

### 〈ハビタット福岡市民の会チラシ〉

A4一枚の説明用チラシを作成しました。  
ハビタット福岡市民の会の説明に活用ください。  
下記 Website よりダウンロードできます。

### 事務局・お問い合わせ

郵便物のあて先

〒810-0041 福岡市中央区大名2-6-46

福岡市 NPO ボランティア交流センターあすみん 連絡 Box 2号

TEL 090-6770-2481(代表 牟田)

090-1873-6954(事務局長 堀)

FAX 0942-41-2080

E-mail: [cnhf@nngo.jp](mailto:cnhf@nngo.jp)

URL <http://cnhf.nngo.jp>